

商品名 エチゾラム錠0.25mg「ツルハラ」 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	エチゾラム0.25mg錠
英名	Etizolam TSURUHARA	剤型	錠
薬価	6.10	規格	0.25mg 1錠
メーカー	鶴原製薬	毒劇区分	(向)

エチゾラム錠0.25mg「ツルハラ」の効能・効果

神経症における緊張、神経症における神経衰弱症状、神経症における睡眠障害、神経症における不安、神経症における抑うつ、うつ病の(緊張、睡眠障害、不安)、(胃潰瘍、高血圧症、十二指腸潰瘍、心身症)の(身体症候、緊張、睡眠障害、不安、抑うつ)、統合失調症の睡眠障害、(腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛)の(筋緊張、緊張、不安、抑うつ)

エチゾラム錠0.25mg「ツルハラ」の使用制限等

1. 急性閉塞隅角緑内障、重症筋無力症	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 呼吸機能が高度に低下	記載場所	重大な副作用
	注意レベル	注意
3. 心障害、脳器質的障害、重篤な呼吸障害、中等度呼吸障害、呼吸機能が高度に低下、呼吸不全、腎機能障害、肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

エチゾラム錠0.25mg「ツルハラ」の副作用等

1. 間質性肺炎、発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音異常、捻髪音	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 薬物依存、痙攣発作、せん妄、振戦、不眠、不安、幻覚、妄想、離脱症状、呼吸抑制、炭酸ガスナルコーシス、悪性症候群、発熱、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、筋肉痛、脱力感、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、肝機能障害、AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、LDH上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、黄疸	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
3. 眠気、ふらつき	記載場所	その他の副作用

4.	健忘、刺激興奮、錯乱、嘔吐、過敏症、紅斑、そう痒感、乳汁分泌、女性化乳房、高プロラクチン血症、眼瞼痙攣、瞬目過多、羞明感、眼乾燥感、眼症状	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
5.	めまい、歩行失調、頭痛、頭重、言語障害、不眠、酩酊感、焦燥、呼吸困難感、動悸、立ちくらみ、口渇、悪心、嘔気、食欲不振、胃部不快感、腹部不快感、腹痛、便秘、下痢、発疹、倦怠感、脱力感、易疲労感、筋弛緩、筋緊張低下症状、発汗、排尿障害	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
6.	興奮、振戦、眼症状、霧視、眼調節障害、蕁麻疹、浮腫、鼻閉	記載場所	その他の副作用
		頻度	0.1%未満
7.	血圧低下、炭酸ガスナルコーシス、催奇形作用、奇形を有する児、障害児、哺乳困難、嘔吐、活動低下、筋緊張低下、過緊張、嗜眠、傾眠、呼吸抑制、無呼吸、チアノーゼ、易刺激性、神経過敏、振戦、低体温、頻脈、離脱症状、新生児仮死、黄疸増強、血清CK上昇、体重増加不良、体重減少、運動失調、低血圧、意識障害、作用が変化、作用が遅延	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

エチゾラム錠0.25mg「ツルハラ」の相互作用

1. 薬剤名等：抗精神病薬との併用等			
発現事象	発汗、頻脈、ミオグロビン尿、血圧変動、腎機能低下、白血球増加、発熱、嚥下困難、悪性症候群、強度筋強剛、血清CK上昇	投与条件	抗精神病薬との併用、本剤の急激な減量・中止
理由・原因	-	指示	注意
2. 薬剤名等：中枢神経抑制剤			
発現事象	血圧低下、眠気、意識障害、運動失調	投与条件	-
理由・原因	相加的な増強作用	指示	注意
3. 薬剤名等：MAO阻害剤			
発現事象	興奮、昏睡、痙攣発作、過鎮静	投与条件	-
理由・原因	MAO阻害剤が本剤の肝での代謝を抑制し、半減期を延長し、血中濃度を上昇させるため作用が増強	指示	注意
4. 薬剤名等：フルボキサミンマレイン酸塩			
発現事象	-	投与条件	-
理由・原因	フルボキサミンマレイン酸塩が本剤の肝での代謝を阻害し、血中濃度を上昇させるため本剤の作用が増強	指示	注意
5. 薬剤名等：アルコール			
発現事象	精神機能・知覚・運動機能の低下	投与条件	-
理由・原因	エタノールと本剤は相加的な中枢抑制作用を示す	指示	注意

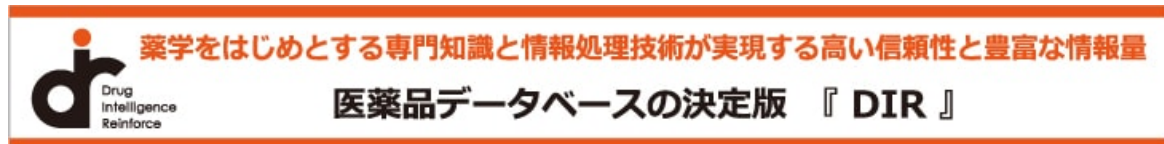
6. 薬剤名等：飲酒

発現事象 精神機能・知覚・運動機能の低下

投与条件 -

理由・原因 エタノールと本剤は相加的な中枢抑制作用を示す

指示 注意



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.